

漁業とスキューバダイビングの共存に取り組んで
—観光漁業としてのダイビングスポット案内—

内海府漁協北小浦遊漁船組合

南 藤 賢 吉

1 地域の概要

佐渡ヶ島は、面積約854km²、周囲約250kmと沖縄本島に次ぐ日本で2番目に大きい島であり、自然景観に恵まれていることから国立公園や県立自然公園に指定され、漁業、観光業が重要な産業となっているが、漁業は資源の減少等、観光は景気の低迷等によって伸び悩んでいる。(図1、2)

内海府漁業協同組合は、佐渡ヶ島の最北端の本土側に位置し、急峻な大佐渡山脈から連なる段丘と急深の海にはさまれた狭隘な地に、鷲崎、北小浦など6集落が点在する寒村地域である。(図3)

地域住民は年々減少し現在202世帯626名で、うち漁業に従事する住民は104世帯118名である。65歳以上の高齢者は169名で地域住民の26%を超えており、高齢化率の高い両津市の中にあっても上位にあり、典型的な過疎高齢の地域となっている。

2 漁業の概要

地域の産業は米と野菜を主体とする農業と定置漁業を主体とする水産業の半農半漁となっており、粗生産額は農業1.5億円、水産業6.2億円、観光やその他の産業約5億円と、水産業が地域の主体産業である。

漁業は大型定置網3ヶ統と小型定置網、刺網、採介藻、養殖等からなり、平成7年では大型定置網の漁獲量850トン、金額約4.8億円、その他の漁業は漁獲量335トン、金額約1.4億円で大型定置の好不漁が漁業の盛衰を握っていると同時に地域の経済をも左右している。(図4)

3 グループの組織と運営

北小浦遊漁船組合は平成2年に設立され、現在は内海府漁協管内、北小浦地区の定置漁業、採介藻漁業に従事する組合員及びその後継者10名の構成である。

両津市が、ダイビングの普及用に、廃校となった旧北小浦小学校を両津市北小浦海洋センターとして改築し、この施設の利用料としてダイバー一人につき協力金700円を徴収し、これを主な収入としている。主な支出はセンターの維持管理費で、年間約120万円の収支での運営である。

4 活動の動機

近年、国民の自然志向や余暇時間の増大から海洋レクリエーションがブームとなっており、とりわけスキューバダイビングの人気は年々上昇している。当北小浦地区でも十数年

前から徐々にダイバーの来訪者が増え始め、漁業操業、航行場所との競合、密漁等が懸念され、海洋レクリエーションとの協調が迫られていた。

一方で、当地区でも漁師の高齢化の進行、若者の漁業離れ等による漁村の過疎化、磯根資源の減少等による漁業所得の低下などの問題があり、単純に漁獲収入の増加を望めば資源量の圧迫につながる恐れがあるため、何か改善策はないかと模索していたが、ダイビングスポット案内を観光漁業と位置付け、漁業との複合経営を行なえば、我々も副収入が得られることにより経営が安定し、同時に地域の活性化、引いては両津市観光の活性化にもつながるのではと考えた。

5 活動の状況及び成果

当初は年配の漁師に「ダイバーにアワビやサザエが捕られてしまうのではないか」という不信感と、ダイバーの人気者である魚を守るためにはダイビングスポットの周辺を禁漁にしなくてはならないことから反対者も多かったが、佐渡スキューバ・ダイビング協会の藤井会長と我々との説得に当り、集落会議の場で「若いもんがそこまで考えているのなら」と了解を得ることができた。なお、佐渡スキューバ・ダイビング協会は、平成元年に発足した、佐渡地区の漁業協同組合及びダイビングショップから成る協会で、当組合は平成2年に加入し、現在は他地区の遊漁船組合も参加している。

ダイビングの予約及び実施のシステムは次のとおりである。（平成7年4月1日現在）

(1) 予約

ダイバー

前日までに電話により遊漁船組合に申し込む。

- ・引率者名、電話番号（連絡先）、ダイバー人数
- ・乗船時間、潜水回数（1ダイブ、2ダイブ）
- ・ダイビング協会指定のダイビングフラッグの有無の確認

↓

北小浦遊漁船組合

配船（輪番制）

(2) 実施

ダイバー

集合時間厳守

乗船名簿の提出

↓

北小浦遊漁船組合

当日の海況が悪くダイビングできない場合は、申込み者に事前に連絡をする。

↓

ダイビングの実施

↓

料金の支払い

(3) 料金

① ボート代

	D回数	3人以上	1～2人
佐渡スキューバ ダイビング協会 会員	1D	2,000	2,500
	2D	3,000	4,000
	3D	4,000	5,000
	ナイト	3,000	4,000
一 般	1D	2,500	3,000
	2D	4,000	5,000
	3D	5,000	7,000
	ナイト	4,000	5,000

② 施設管理費 1人につき700円

③ 代金の支払いは現金払いとする。

サービスの充実を図るため、センターの敷地内に菜園を設けダイバーに食べてもらうためのキュウリ等の野菜を作る、漁港やダイビングスポットの清掃に取り組む、漁港内の空地に花壇を作る等の事業を実施して少しでもダイバーに喜んでもらえるよう努力するとともに、基本的なことではあるが、最後に「また来いっちゃ」と声をかけ、手を振って見送ることを心がけている。また、佐渡のダイビングをより魅力あるものにするため、水中七夕まつり、水中クリスマスといった様々なイベントを開催している。(写真1、2)

一方で、海洋レクリエーション関係の海難事故が全国で多く発生していることから、ダイバーの救助訓練を行ったり、ダイビング協会の主催する安全潜水講習会に積極的に参加して事故防止に努め、万が一事故が起こってしまった場合を想定し、全船が遊漁船保険に加入している。

また、会員個人個人が得たボート代金の中から、ダイバー一人につき100円とダイバーが使用したエアタンク一本につき100円を捻出し、地区に支払っていること(平成7年度は366,300円支払い)を始め、食事の準備や花壇の清掃、ダイビングセンターの清掃等について婦人部に協力をお願いし、施設管理費の中からその報酬を支払っていることが地域活性化の一助となっている。

幸いに当地区のダイビングスポットにはコブダイが居付き、餌付けにも成功したため、全国的に有名なポイントとして知られるようになり、バブル崩壊後は鈍化したものの、受け入れたダイバーの人数は着実な伸びを見せている。(図5、写真3)

6 波及効果

ダイバーに海を開放することにより、ダイバー同志が牽制しあい密漁者が少なくなり、ダイバーを受け入れることで密漁者の撲滅が期待できるのではないかと考える。

シーズンの最盛期には、都会からのダイバーで大変な賑わいで地域全体が活気付き、何よりも年配者には良い刺激になっているようである。我々も、ダイビングの案内はサービス業であることから、漁業とは異なり気苦勞もあるが、都会の人との交流で視野が広がり、以前に来たことのあるダイバーが覚えてくれていて、声をかけてくれたときなどは「やっていてよかったなあ」と喜びを感じる。漁業とダイビングが共存することで若者が漁業に

目を向け、興味を持ってくれたら幸いに思う。(写真4)

また、当遊漁船組合が佐渡スキューバ・ダイビング協会に加入したことで、漁協管内や島内の他地区でも遊漁船組合が組織されるとともに協会への加入が進み、佐渡島内でのダイバー受入れ環境の整備が促進されつつある。

7 今後の課題

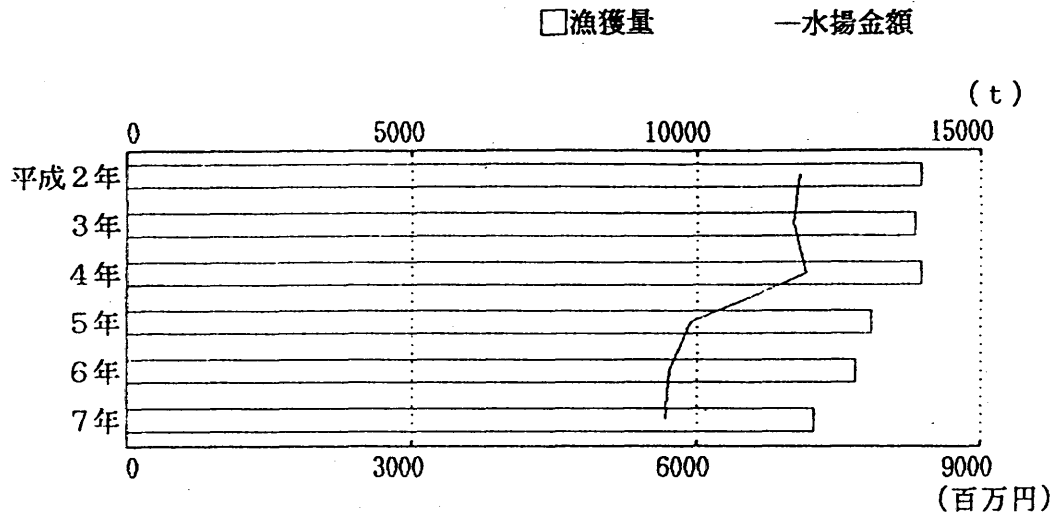
ダイバー人口は増加傾向にあるが、将来は頭打ちになることも予想され、各地で誘致作戦が展開し競合が激しくなることも考えられる。そのためにも、ソフト面では、①優秀なガイドの養成、②接客態度の向上、ハード面では、③現在の短期滞在型から長期滞在型への転換を目指した宿泊施設の充実、④ダイビングスポットの拡大(魚礁設置等)の検討、などを実施していく必要がある。

ダイビングスポット案内は、安定した収入が得られ、比較的肉体的な負担が少ないため、漁撈作業がきつくなった高齢者でも十分に経営を行なうことが可能であり、我々も将来を考え、長期的な展望を持って活動していきたいと思う。

漁業も海洋レクリエーションも美しい海なくしての存在はありえないが、最終的に「佐渡の美しい海を守っていくのは、海を生活の糧としている地元の漁業者である」という誇りと責任が我々にはある。これからもダイビング協会と足並みを揃え、地域と行政のバックアップを得ながら活動を展開していきたいと考えている。

(図1)

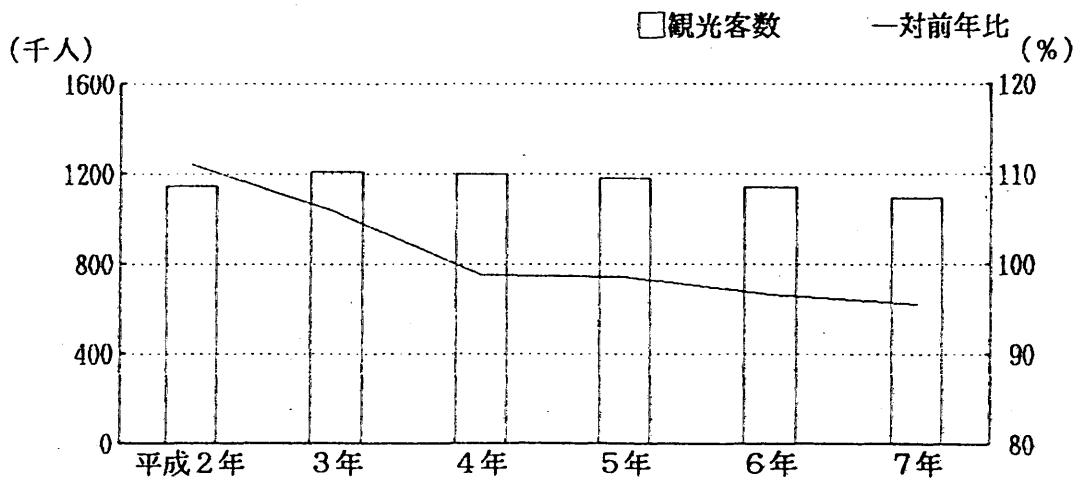
佐渡全島漁獲量及び水揚金額



	平成2年	3年	4年	5年	6年	7年
□ 漁獲量	13951	13831	13941	13062	12779	12049
— 水揚金額	7074	7005	7142	5951	5718	5673

(図2)

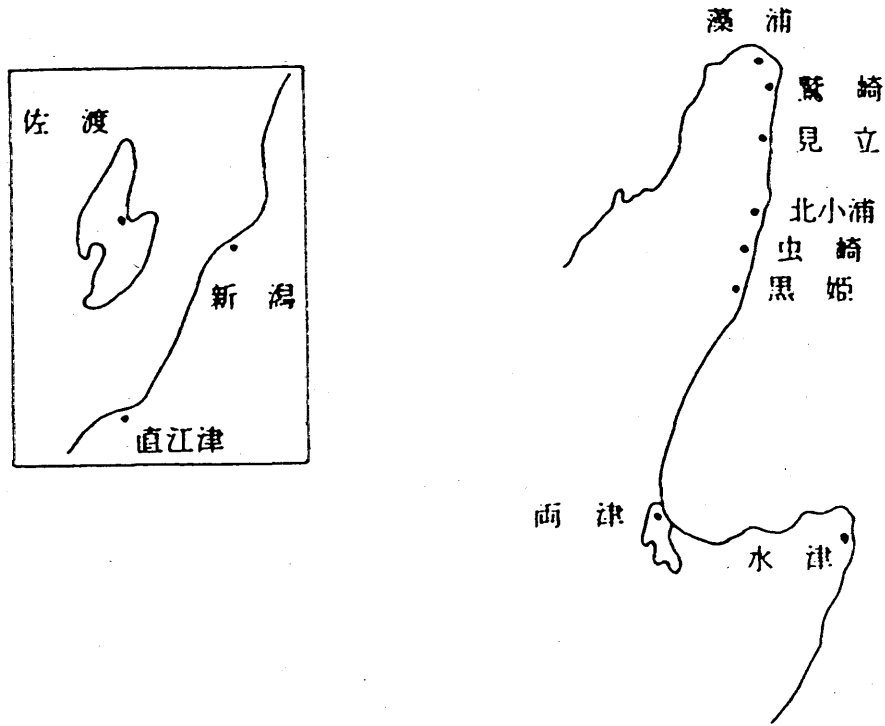
佐渡観光客数



	平成2年	3年	4年	5年	6年	7年
□ 観光客数	1147	1214	1200	1183	1144	1094
— 対前年比	111.1	105.8	98.9	98.6	96.7	95.6

(図3)

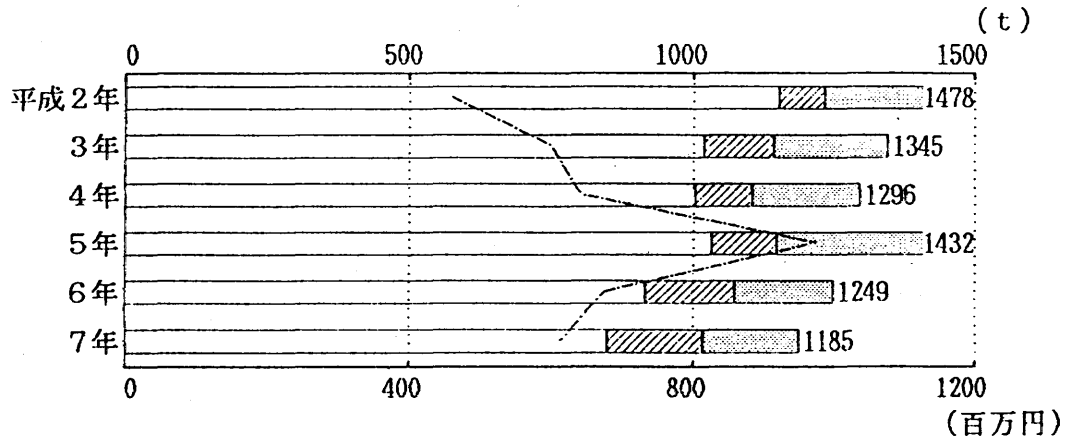
内海府漁業協同組合地区概略図



(図4)

内海府漁業協同組合漁業種類別漁獲量及び水揚金額

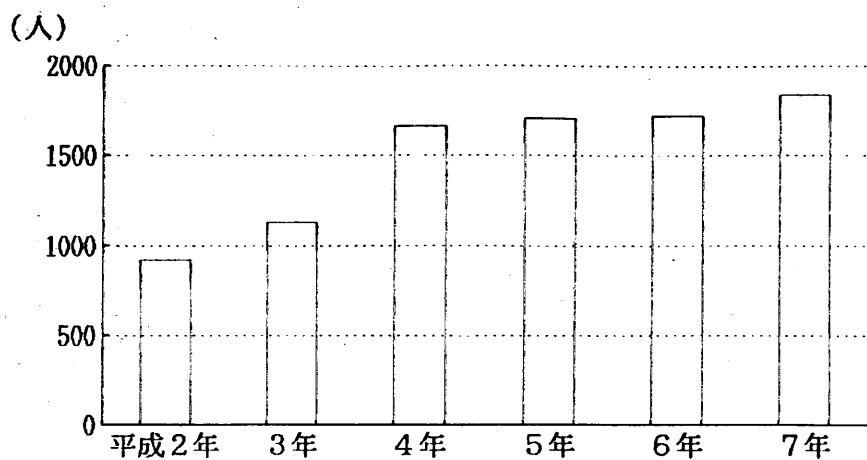
漁獲量 (t) : □大型定置 ▨小型定置 ■その他
 水揚金額(百万円) : ---総水揚



	平成2年	3年	4年	5年	6年	7年
□大型定置	1149	1019	1002	1031	917	850
▨小型定置	82	120	99	115	155	166
■その他	247	206	195	286	177	169
---総水揚	461	603	646	973	679	616

(図5)

北小浦地区受入ダイバー人数



	平成2年	3年	4年	5年	6年	7年
□ダイバー数	927	1134	1666	1710	1726	1840

(写真1)

水中七夕祭り



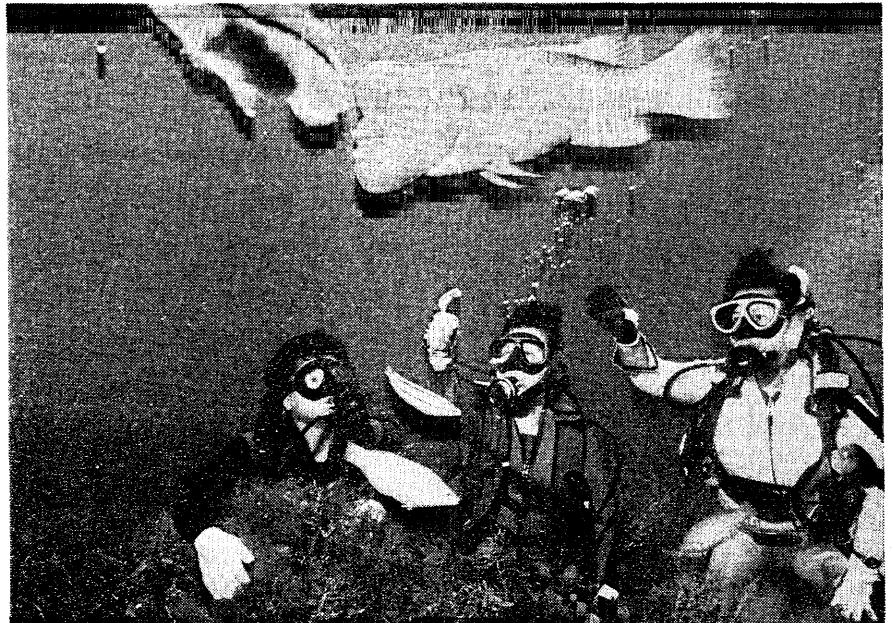
(写真2)

水中クリスマス



(写真3)

餌付けされた
コブダイ



(写真4)

地元の漁業者、
婦人部の手料理
を楽しむ
ダイバーたち

